

## 国内・国際交流

## ① 分野の定義

## ◀ 現行計画（令和4～8年度）の定義

都市交流は「国内交流」と「国際交流」とを分けて定義づけます。「国内交流」は、文京区と協定等を締結している自治体を中心に住民・地域団体等と、文化やスポーツ、自然体験等の幅広い分野の活動や食や特産品を通じて交流を行うことを指し、住民相互の理解促進、双方の地域経済の活性化、区にはない自然や文化を体験・経験する機会や区の魅力を再発見する機会創出等につなげることをねらいとします。

「国際交流」は、姉妹都市・友好都市との交流を含め、外国人と区や団体が行うイベントや事業等を通じて区民と交流を行うことを指し、異国文化の理解促進、双方の地域社会の活性化、国際化の進展、在住・在学外国人との交流促進などにつなげることをねらいとします。

## ▷ 定義の再確認・検討の視点

国内外の人々と継続的な交流を推進するため、区として地域間交流の在り方を示し、他分野と連動した横断的な交流の機会の創出が重要です。

また、多文化共生社会の観点から、在住外国人を「交流の担い手」として、より充実した文化交流をめざすことも重要です。

## ② 現状と課題

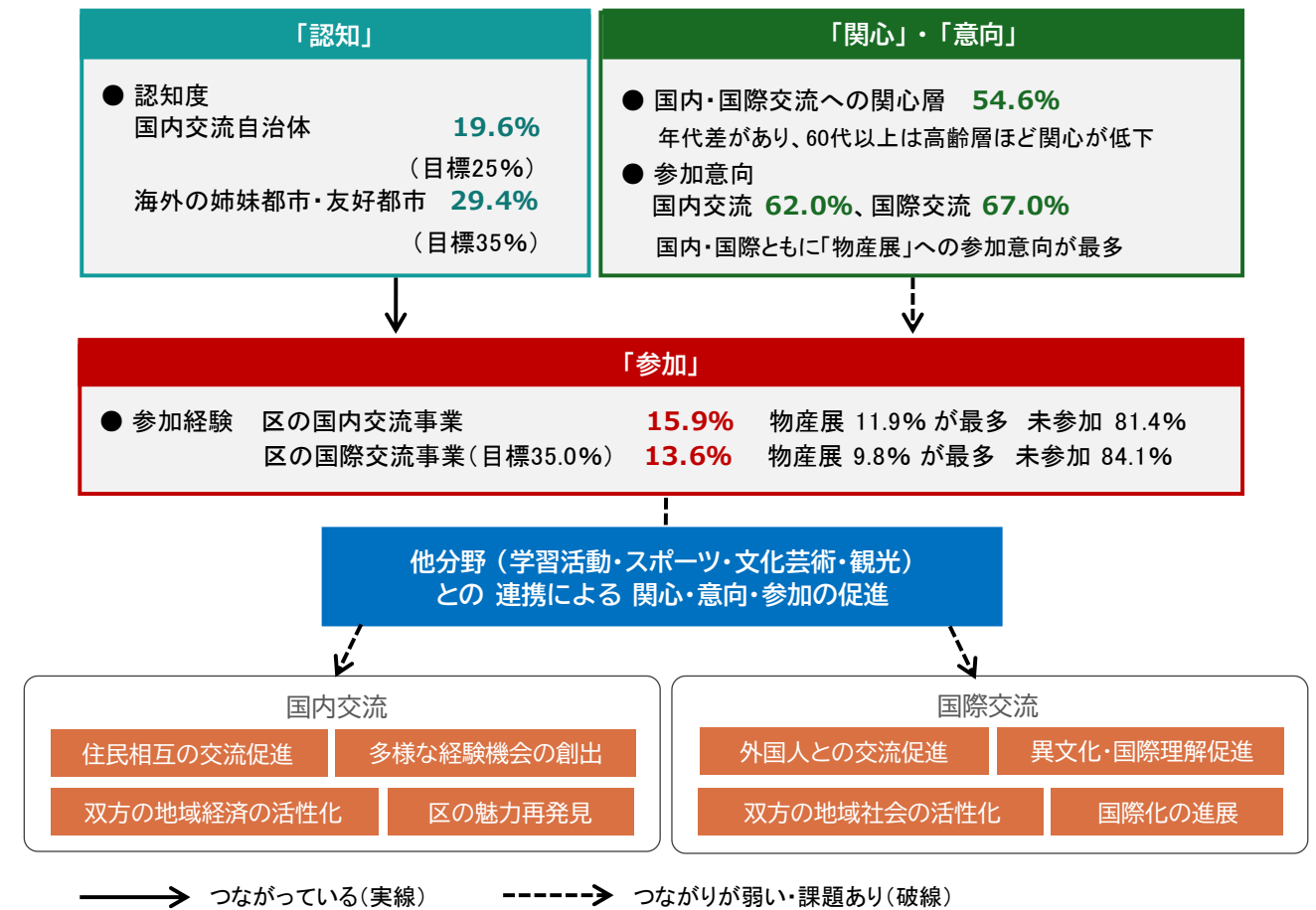
## ②-1 現行計画（R4～R8）指標の達成状況

| 基本方針 | 指標名  | R元年度の実績値 | R7年度の実績値 | 現行計画の目標値 |
|------|--|----------|----------|----------|
| ①    | 国内交流自治体の認知度                                    | 18.5%    | 19.6%    | 25.0%    |
| ②    | 区が実施する国際交流事業への参加経験<br>※前回調査（外国人との交流状況）と設問が異なる。 | 25.2%    | 13.6%    | 35.0%    |
| ②    | 海外の姉妹都市・友好都市の認知度                               | 26.1%    | 29.4%    | 35.0%    |

## ②-2 現行計画期間（R4～R8）の主な成果

- ・都市交流フェスタの2日間開催や物産展を通じ、交流自治体の認知度向上や魅力発信につなげる成果を出した。
- ・アカデミア講座による諸外国の歴史・文化に関するテーマが人気を集め、区民の国際認識を確実に高めている。
- ・「やさしい日本語」を活用した留学生との交流会など、区民と外国人との交流促進が図られている。
- ・国内3（うるま市、水戸市、常総市）、海外2（ソウル特別市松坡区、パリ市5区）都市と新たに協定等を締結し、さらなる多様な体験等を提供できる機会を整えた。

## ②-3 現状と課題の構造



関心・参加ともに動機が得やすい「物産展」への集中がみられ、多角的な動機づけが大きな課題の一つとなっている。国内・国際交流への参加行動を促進する取組について、今後の注力余地が残る。

## ②-4 課題のまとめ

## ① 国内及び国際交流に関するわかりやすい情報発信と関心喚起

区が取組について、交流分野は単独の事業に限られるため、アカデミア推進計画における他分野の情報入手率に比べて高くないが、多くの分野との連携が可能であり今後の情報発信等において、工夫が必要である。区民のニーズが高い「物産展」、「大規模災害発生時の協力体制の構築」は、交流分野において明確な目的・動機づけのあるテーマといえる。

## ② 物産展に偏らない多様な交流機会の創出

参加したい事業で高い割合を占める物産展を入口とした交流への取組が検討される。文化事業やバスツアー等のニーズに対しては、民間事業者との連携も視野に入れた取組の検討も必要である。他分野への関心や参加との関連づけにより、国内・国際交流の切り口から多角化を図っていくことが今後の交流分野の活性化に有効と考えられる。